

# まとめにかえて

隅蔵康一

Smips 総合オーガナイザー

**横断的な知識を  
幅広く身に付けた人材の育成が必要**

**知的財産の知識に触れる機会の提供**

**関連職人材とのネットワーク形成**

**技術流動成功モデルの共有**

**情報提供を行う場の構築**



**April 2000 smips の誕生**

**(Society for Management of Intellectual Properties)**

## 2000年のsmips

輪講等の勉強会形式で開催 少人数で活発な議論を展開

## 2001年のsmips

全体セッション・分科会活動開始・ワークショップ開催  
文部科学省のモデル事業となる

## 2002年のsmips

分科会活動を活発化(幅広いニーズに対応することが目的)

## 2003年のsmips

経済・社会問題など、より幅広い知財関連議題を提供

## 2001年のワークショップ

11月23 - 24日の2日間にわたって開催、複数団体の協力  
講演・パネルディスカッション主体

## 2002年のワークショップ

1回目のワークショップに参加した人々が自主的にセッション  
を企画

## 2003年のワークショップ

参加型の企画を増やした(契約ネゴシエーションなど)

# そして 2004年度の smips・ワークショップは・・・

- 新たな波がやってきた  
(参加者属性の多様性)
- 若手だけにとどまらない参加者の広がり
- 「知財を学ぶ」「知財を知る」  
という受身の姿勢から  
「知財を生かした発信」のステージへ

Smips ML 977名(2004年11月20日現在)

# 今回のワークショップの報告

- 『MOTテキストシリーズ第7巻 MOT知的財産と経営』(野中郁次郎総合監修、永田晃也・隅藏康一監修、丸善、2005年)の一つの章として、今回のワークショップで得られた知見が掲載される。

# 「知識を生み出す」ために必要なスキル

- 情報収集力
- 情報整理能力
- 概念抽出能力・モデル化能力
- 異なる事象の組合せ能力
- 発想力・発明力
- 企画立案能力
- タイムマネジメント能力

# 「知識移転」はいかなる場面で必要か

- クラスルームの中での知識移転(教育)
- 実務的スキルの知識移転(技術移転機関でのトレーニングなど)
- 口頭発表による知識移転(学会など)
- 文章による知識移転(著書、論文など)
- 知的共同作業における知識移転(共同研究など)
- 交渉における知識移転(契約交渉など)

# これから1年の知的財産をめぐる状況

- 政策：「知的財産推進計画」は3回目
  - 経営：「知財会計・知財評価」の深化  
「信託業法82年ぶり大改正」  
新たなビジネスモデルの構築へ
  - 学術：「日本知財学会 年次研究集会」は3回目
  - 育成：「知財人材育成」は分野特化型・融合型へ
- 
- 国際：上記すべての項目における国境を越えた広がり
  - 学際：既存のディシプリン間の融合
  - Smips：2005年、新たなステージへ？